

夢窓幼稚園通信第24号

2022年6月30日

夜の地域の会議を終えて帰る途中、公園の中から甘い香り！
思わず立ち止まり、匂いに誘われて公園に入ると“くさしの
白い花”でした。

新春のスイセンにしても 春先の沈丁花にしても・・・風は
運ばれてくる季節の香りに、人はうれしく捕まってしまうものですね。

今うたっている子どもたちと楽しんでいる歌に、「...ぽかぽか
おひさまとおなじにおいがる...」という言葉が出てきます。
空からやってくる雨にも、においを私たちは感じます。

私たちは世界と向き合う時に先ず感覚を通り出発しますが、
触覚や視覚など どちらかという触手を伸ばすように外に出て
いく感覚もあれば、嗅覚や味覚のように外から内に流れ込んで
くる香りや味を受けとる感覚もあるみたいです。
匂いを例にすると、流れ込んできたものに触発され、外に向けて
その香りのありかを求めてもいくのですが・・・
似たような整気を持った人と人とき、「同じ匂い」と例えて表現
しますから、元々流れ込んできたものの実態を内なる所で
受容する嗅覚なのであります。

今年はすこぶる早く梅雨が明け、夏の扉が開かれたとのこと。
これからの真夏の日々水不足が心配ですが、世界に向けて夢を
見、冒険する季節がやってきました。
子どもたちは、外の世界へ 内の世界へと感覚全開の日々を過ごすこと
でしょう。

安心してのびやかに 出ていく感覚も、受け容れる感覚も働かせて、
存分にあふれる存在たちのゆたかな生命と出会うことができますように！
そしてそのことを通して、様々な存在たちと出会い・向き合い・やり
とりをすることで存在たちを生かしている、他ならない(夏の日
に輝く)自分自身の確かさを、言葉を超えて実感することができますように！
子どもたちも 大人たちも・・・

私たちは、自身の輝きを通して「いのちゆたかな文化」を未来に
向けてつむぎ出す役割を託され、担っているのだと思います。

園長 升光 泰雄